

学校の概要（平成15年4月現在）

観音寺市立観音寺南小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	3	3	3	4	19	29
児童数	66	76	70	90	97	82	5	486	

研究の概要

1. 研究主題

教科学習の見直しと評価の改善

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年算数(子どもの理解度に差が出やすい教科で,全学年の系統立てた指導が必要であるため) 全学年国語(授業改善に当たって子どもの問題解決力を伸ばすための基礎となる教科であるため)</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度

テーマ

教科学習の見直しと評価の改善 算数科を核として(1年次)ー
研究の見直し

教師が教科の本質(育成する学力)を共通理解し,評価を改善しながら日々の授業を充実させることが,子どもの学力を向上させる。

研究内容

学びの価値を明確にした算数科の授業改善

算数科の学力の定着・向上をめざす教材の開発と評価

研究方法

算数科の領域・単元・本時の指導の本質と評価規準の明確化

各単元の理解や定着を図るための評価問題と発展的な教材(問題)の開発

問題解決過程での評価内容と方法の改善

- ・ 算数科の領域・単元・本時の指導の本質を分析し, a・bカードに整理する。
- ・ 4つの評価観点の具体を明確にした,本質に迫る授業と評価規準をcカードに整理する。
- ・ 授業実践の中で,児童の反応(よさ)をタイムリーに記録できるdカードを活用し,観点別に継続的な評価活動を行う。
- ・ 単元で理解させなければならない内容とそれに対応した評価問題をeカードに洗い出し,それをもとに個々の理解度を測り,確実な定着に向かわせる。
- ・ 本質に関わる発展的な教材及び補充的学習を単元ごとに開発し,挑戦する場を保障する。

上述のa b c d eカードを「単元セット」とし,日々の授業実践に沿って,各学年4領域(1・2年は3領域)に1単元ずつの単元セットを作成する。

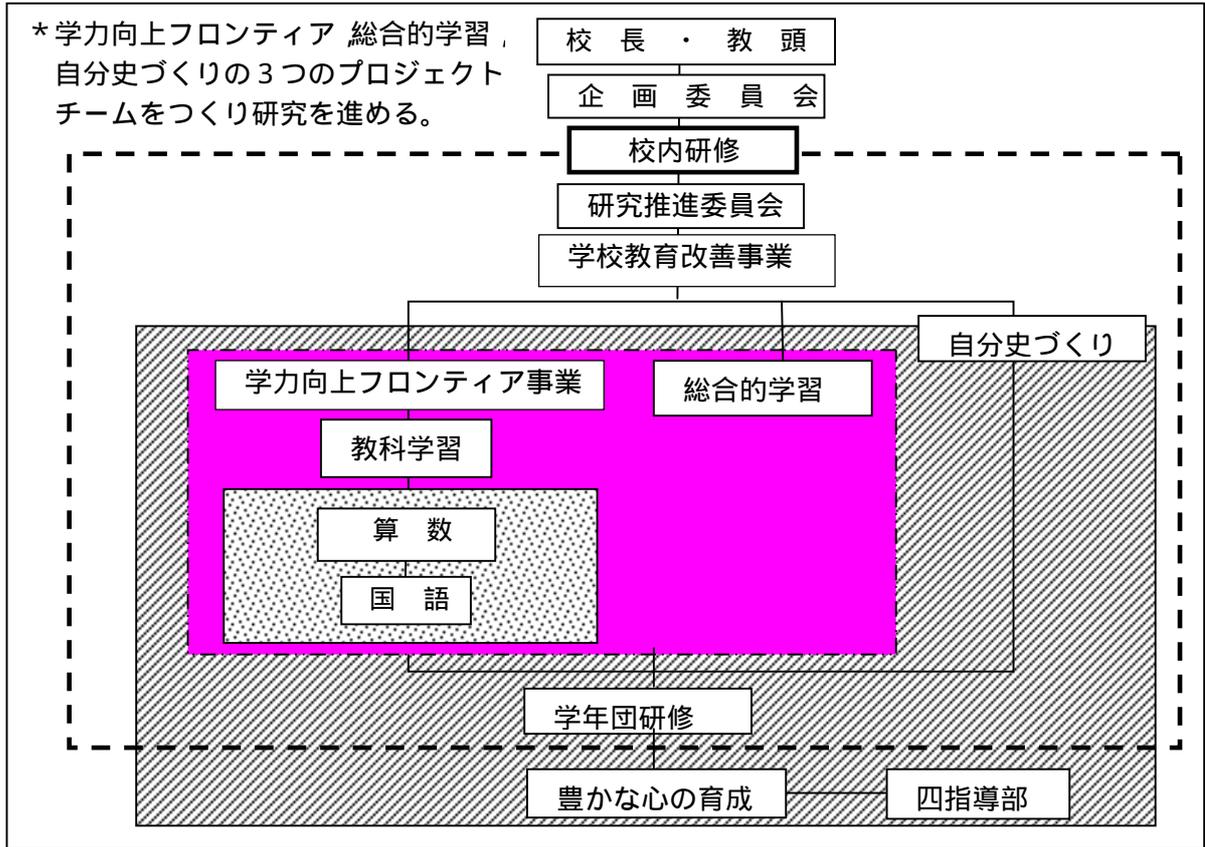
平成
15
年
度

テーマ
 教科学習の見直しと評価の改善 算数科を核として(2年次)
 研究の見通し
 14年度に準ずる
 研究内容
 学びの価値を明確にした算数科の授業改善
 算数科の学力の定着・向上をめざし、習熟度別コース学習等の指導体制・指導方法の工夫
 算数科の指導法を基にした国語科説明文教材の授業改善
 研究方法
 全学年算数全領域の単元セットの作成
 昨年度作成の算数単元セットの実践と修正
 各学年4領域(1・2年は3領域)に1単元ずつの単元セット及び単元毎の基礎・基本評価問題集の冊子作成

平成
16
年
度

テーマ
 教科学習の見直しと評価の改善 算数科の考えを国語科に広げてー
 研究の見通し
 算数科での取組を国語科に広げ、見直しと評価の改善を図っていくことで、子どもの学力を向上させる。
 研究内容
 算数科の授業改善と評価のまとめ
 算数科の指導法を基にした国語科説明文教材の授業改善と評価
 研究方法
 算数科単元セットの検証
 国語科説明文教材における育てたい力の明確化と過程の学力の育成

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

(1) 算数科学習の見直し

算数科指導の本質と評価規準の明確化

本年度は、算数科における基礎・基本を整理した単元セット（a b c d e カード）を算数単元において作成すると共に、昨年度作成の単元セットの修正と改善に取り組んだ。

単元セットを作成することで、教材の本質を学年団の教師が内容や指導の系統性をつかみ、個々のつまずきに対して適切な支援を工夫することができるようになった。

その1点目は、単元に入る事前に a, b, c カードを作成することで、毎時間の評価規準と育てる「過程の学力」が明確になり、基礎・基本をおさえ、B 評価に到達させるための教材・教具やワークシートづくりができた。

2点目として、e カードを作成することで、個々の子どもの B 評価到達の状況が、教師・子ども双方で的確に把握でき、次の発展的・補充的学習内容を明らかにすることができた。

単元セット

(b カード)

(c カード)

第6学年	単元2	分数	2A	5月中旬～6月中旬	13時間
<p>本単元で扱う基礎・基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分数の約分や通分の意義を理解し、分数の相等関係や大小関係について考察し、分数についての理解を深める。 ○ 異分母の分数の加法、減法の意味について理解し、それらの計算を仕方を考え、適切に用いることができる。 ・ 除法に関して成り立つ性質に着目し、同じ分数を表す分数を通分により、分数についても整数や小数の場合と同様に処理できることを理解する。 ・ 真分数と帯分数の加法およびその逆の減法について、通分することにより単位分数の幾つ分として考え計算することができる。 <p>本単元の系統</p> <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分数の意味（単位分数） ○ 分数の大小・相等 ○ 帯としての分数 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 倍数・約分・通分 ○ 異分母分数の加法 ○ 分数×整数、分数÷整数 数の意味と計算 ○ 除法に関して成り立つ性質（分数） 					

時・目標 指導形態	主な学習活動	評価規準	育てる過程の 学力	
第1時 (7・1)	<p>○ 異分母分数の大小の比べ方を考える。</p> <p>○ 同値分数の分子と分子に目を向け、同値分数についての理解を</p>	<p>分母がもう分数の大きさを比べるには、何をそろえたと分りやすいか考えよう。</p> <p>1 分数で表された面積 $\frac{2}{3}$ m² と $\frac{3}{4}$ m² の大きさのくらべ方について考える。</p> <p>2 面積図を見ながら、$\frac{2}{3}$ を $\frac{1}{6}$、$\frac{1}{9}$、$\frac{1}{18}$ を単位にして表す。【考】</p>	<p>8 大きさの等しい分数の作り方を理解して、分母の公倍数を使えばよいことが分かる。</p>	<p>〈物える学力〉 異分母分数を比べるときには、分子よりも分母をそろえて、単位を同じにする方が分りやすいと考える。</p> <p>【活動1】</p>

(2) 評価の改善

過程の学力の評価

授業中の思考過程で育てられる学力を「過程の学力」ととらえ、教師が育てたい力を下のようなア・イ・ウ・エ・オの観点別に示した d カードを作成し、授業中の子どもの細かな反応にポイントを与え、賞賛しながら算数の学び方を身に付けさせていくことをねらったものである。

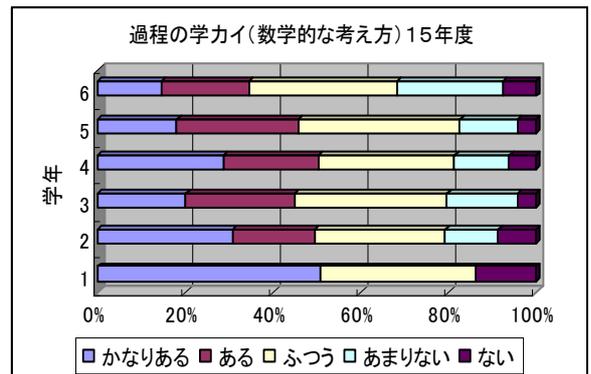
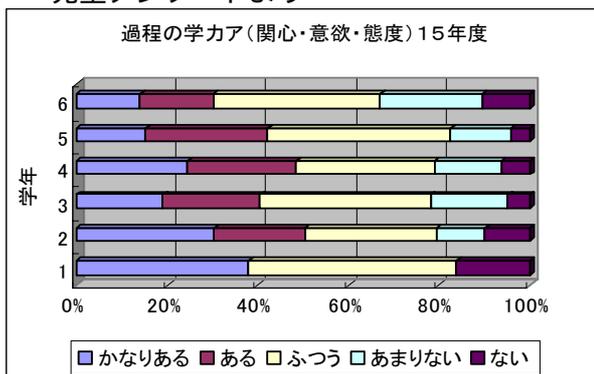
授業時間の中で、子どもの発言や考え方のよさを賞賛しながらポイント化し、どんな力をつけていけばよいのか、自分にどんな力がついてきたのかを意識させながら指導している。特に、授業中においては、ア、イの力を育てることに重点を置いた。

- ア：関心・意欲・態度
 イ：数学的な考え方
 ウ：表現・処理
 エ：知識・理解（以上算数の観点）
 オ：かかわり合って学ぶ力（全教科で育てる観点）

(d カード)

4つの箱をはたらかせよう	ぼくの・わたしの解
●もっとべりな方法は？	三角形 下
●もっとはやい方法は？	2桁わり算 下
●もっとかんたんな方法は？	面積 正正
●いつでもどんなときでも 使える方法は？	小数 正正正正正正
自分で工夫しようとする箱	がい数 正正正正正正
★習ったことを使ってとける	三角形 下
★習った形にかえてとける	2桁わり算 正正
★習ったものと同じところを見つ けることができる	面積 正正正正正正
★きまりを使うと	小数 正正正正正正
習ったことを使って とこうとする箱	がい数 正正
◆かんたんに、短く表現できる	三角形 下
◆正しく図形が書ける	2桁わり算 下正正正
◆習った方法を使ってとける	面積 正正正正正正
◆正確にはやく計算できる	小数 正正正正正正
習ったことが正しくできる箱	がい数 正正正正正正
■数や図形の名前や意味が分かる	三角形

児童アンケートより



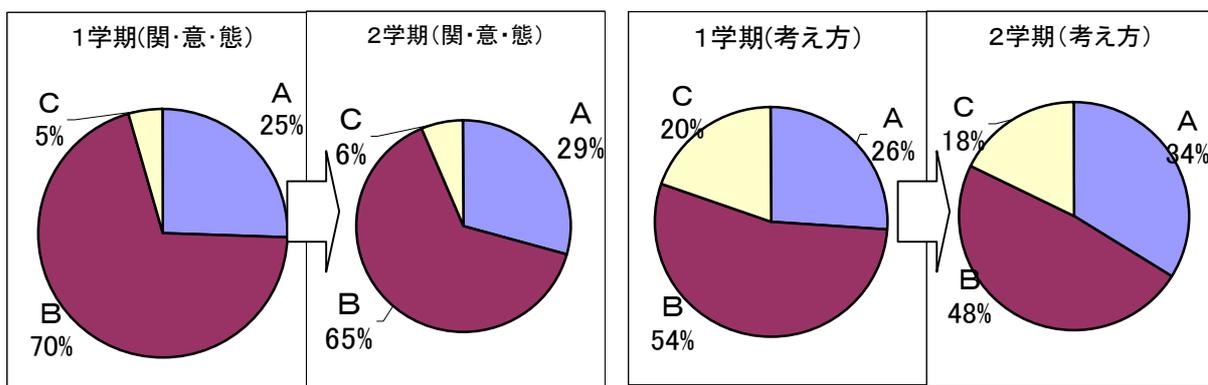
結果の学力の評価

子どもへの算数に関する意識調査では、昨年度の調査と同様「授業中の勉強はよく分かる」と感じている子がどの学年も 80%をこえており、「算数のテストは自信がある（テストが80点以上）」と答えた子も約 80%である。また、「算数は好きですか」という問いに対しては、「好き」または「嫌いでない」と答えた子が 80%をこえており、大半の子が算数に関心をもっていることがうかがえる。

このことから、子ども自身に算数の力を意識させること、教師が算数の本質をとらえたきめ細やかな支援を計画的・継続的に行うことで、子どもは算数が好きになり、自信をもって学習に取り組むようになっていくことが期待できるといえる。

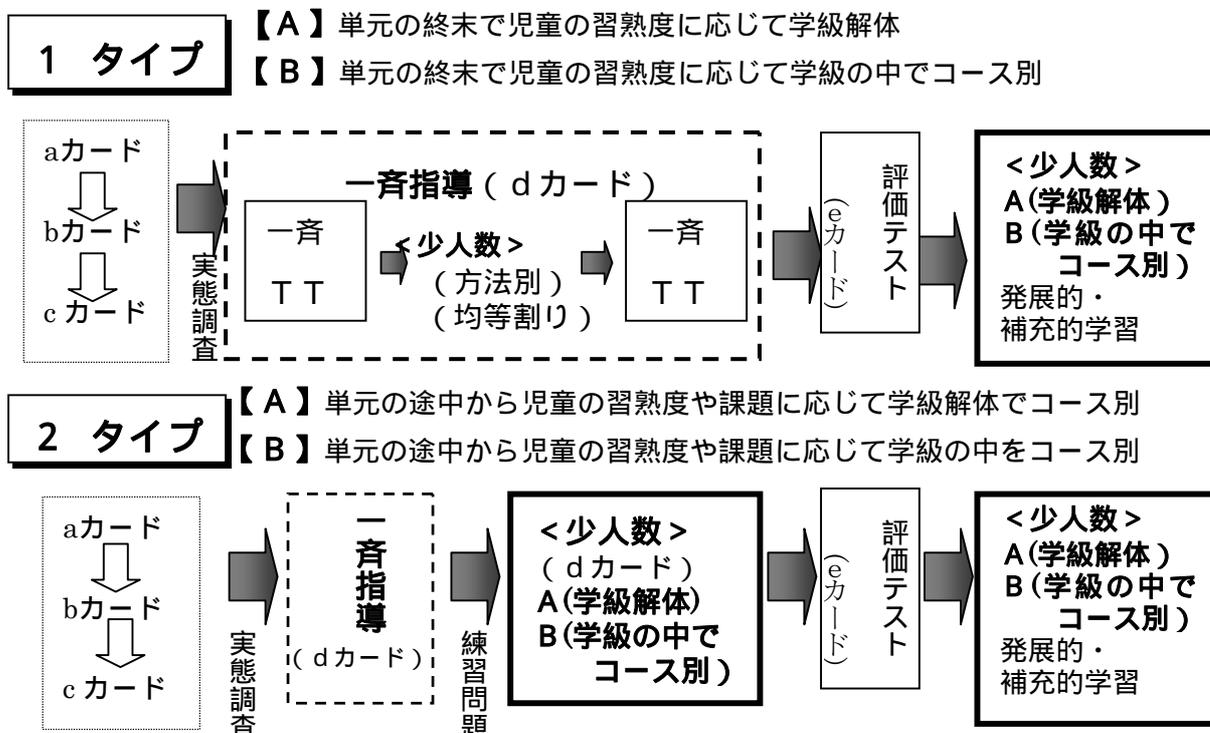
教師による1学期末、2学期末の評定においても下のグラフのように「関心・意欲・態度」ではC評価は1割未満であり、「数学的な考え方」では、A評価の割合が伸びていることから、子どもの学び方が育ってきていることがうかがえる。

算数の観点別評定の割合



指導方法・指導体制の工夫

ア 単元セットを生かす少人数指導の学習形態（1 A・1 Bタイプ、2 A・2 Bタイプ）



単元セットと関連づけて、どの領域で、どの形態をとることが効果的かを整理できた。

1 タイプ...図形・量と測定領域（算数用具の技能や基本加減乗除の習得等に有効）

2 タイプ...数と計算・数量関係領域(スモールステップの指導や発展的内容等少人数指導に有効)

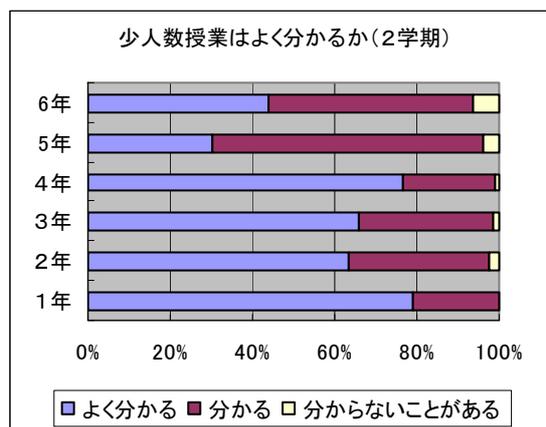
イ 補充的・発展的学習の充実と評価

教科書に記述された内容を、どの子にも身に付けさせるために、毎時間の重点指導観点について評価し、理解の不十分な子に対しては、その都度、評価問題等による補充指導を行った。

単元の終末では、単元で理解させなければならない内容を洗い出したカード(e カード)に基づいて作成した評価問題に取り組みさせた。その回答状況をもとに発展的・補充的学習に至るまでの評価規準に基づく個々の子どもの評価(A B C)をもとに、「めざす子どもの学び」を明確にして支援を行い、学習活動の様子を個人内評価するようにした。

「めざす子どもの学び」(個人内評価の視点)

- ・ A評価, B評価の子ども・・・自ら広げたり深めたり進めたりしているか。
- ・ C評価の子ども・・・基礎的・基本的内容の定着がどこまで「おおむね満足できる」に近づいているかを測る。



<児童への算数に対する意識アンケートより>

2 今後の課題

(1) 算数単元セットの活用と効果の検証

- ・ 単元の基礎・基本が確実に身に付くような指導方法や時間配分になっているか、検証する必要がある。

(2) 評価の改善

- ・ 育ててきた「過程の学力」が、新しい問題の解決に生かされ、確かな基礎・基本の定着に結びついているか検証していきたい。

(3) 一人一人の教師の指導力アップによる 指導方法・指導体制の工夫

- ・ 本校の課題解決に向けて教師一人一人が授業で提案するなどにより、教師の授業力の向上を図るとともに、学力向上につながる効果的な少人数指導ができるように、時間割の工夫や打ち合わせ時間の確保が必要である。

(4) 国語科説明文教材における「過程の学力」の明確化

- ・ 学年ごとに身に付けさせたい学び方の系統や段階を整理し、その学年での学び方を確実に身に付けさせていくことを通して、「読む力」を付けさせたい。
- ・ 「過程の学力」を支える言語事項等の指導を単元セットの中に位置づける必要がある。

学力把握のための学校の取組

- ・ 算数自作評価テストの実施(単元毎1回)・・・単元終了後身に付いた基礎・基本の学力評価
- ・ 算数県版テスト(学期毎3回)・・・単元で身に付いた基礎・基本の最終の学力評価
- ・ 教研式C R Tテストの実施(年1回)・・・学力の全国レベルでの把握
- ・ 学習状況調査の実施(年1回)・・・学力の自校の県内レベルでの到達度の把握

フロンティアスクールとしての成果の普及

- ・ 学力向上フロンティア事業の地区別協議会での説明・報告

	日 時	場 所	主 な 内 容
第1回	6月20日(金) 13:30~16:30	三豊合同庁舎 3階大会議室	・研究計画と1学期実践の概要の説明 ・計画及び実践上の課題について検討
第2回	12月26日(金) 8:45~12:00	三豊合同庁舎 3階大会議室	・研究の成果と課題について報告 ・実践の成果・評価の公開について検討
第3回	2月20日(金) 14:45~16:40	地区小中教頭会 会場	・地区協議会実践発表会 ・研究の成果や次年度の課題について発表

参加者 フロンティアスクール校長（第3回については地区小中学校教頭）
 地区内教育委員会代表 保護者代表
 地域住民等代表 地区内校長会長
 教育事務所担当 学識経験者等
 その他有識者

・ 学校教育改善事業ポスターセッションでの発表

日時 平成15年12月25日（木）10:00～16:30
 場所 総合会館 アイレックス（綾歌郡綾歌町）
 対象 小・中学校教員，市町教育委員会職員，教育機関職員，一般参加者
 会の目的 学校教育改善事業の成果の普及と外部評価

・ 公開校内研修

日時 第1回 平成15年 7月 2日（水）13:10～16:45
 第2回 平成15年11月19日（水）13:10～16:45
 第3回 平成15年12月 3日（水）13:10～16:45
 場所 観音寺南小学校
 対象 三豊・観音寺地区小中学校，学力向上フロンティア研究校等
 会の目的 校内研修の充実と研究成果の普及及び外部評価

・ 県外からの視察研修受け入れ

平成15年 5月28日（水）～30日（金） 高知県幡多郡大方町立南郷小教諭短期研修
 平成15年 8月12日（火） 広島県福山市小学校長会研修視察
 平成15年12月 3日（水） 広島県福山市立福山南小教諭県外研修
 熊本県熊本市立一新小教頭県外研修
 西部養護学校教諭研修
 平成16年 1月23日（金） 奈良県吉野町教頭会研修視察
 平成16年 2月 5日（木） 京都府相楽郡小学校長会
 京都府北桑田郡教育局管内教諭・教頭学校視察
 平成16年 3月 2日（火） 長崎県諫早市上山小教諭視察

・ 学校ホームページによる発信

学力向上フロンティア事業のページで実践内容の概要を提示中
 同じく，成果と課題を年度末に掲載予定
 URL <http://www.niji.or.jp/school/kannan/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	